

【Ⅰ. 教育】 1.定員管理の適正化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
定員管理・学生募集	各学部・学科・研究科の学生募集	入試センター事務部	[入試課]オープンキャンパス、進学ガイダンス等により受験生と接触し、進学意欲を醸成する。高校・予備校訪問等により、教員への本学理解を促す。広告媒体を活用し、認知度向上を図る。 [文学部]定員充足に向けた具体策を入試対策委員会にて審議し実行する。オープンキャンパス等の各種イベントや高校訪問、高校対象のガイダンスなど、本学の魅力を伝えられるような施策を検討し実施する。 [歯学部]定員充足に向けた具体策を入試対策委員会にて審議し実行する。歯学部体験入学等の各種イベントや高校訪問、予備校への広報など、本学の特長をアピールする施策を実施する。 [文学研究科]在学生に対する広報、及び大学院授業科目早期履修制度を実施する。7月に大学院説明会を実施する。 [歯学研究科]在学生に対する広報を実施する。 [保育科]オープンキャンパス、保育科体験フェアを積極的に行う。また紫雲祭や光華祭に継続して参加する。出張講義や高校訪問を積極的に行う。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールする。 [歯科衛生科]本科を認知してもらうために、紫雲祭や光華祭に継続して参加する。出張講義や高校訪問を積極的に行う。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールする。 [専攻科]オープンキャンパスや保育科体験フェアで受験生に対し専攻科を設置していることをアピールする。在学生を対象に専攻科説明会を実施する。	[入試課]オープンキャンパス、進学ガイダンス等により受験生と接触し、進学意欲を醸成する。高校・予備校訪問等により、教員への本学理解を促す。広告媒体を活用し、認知度向上を図る。 [文学部]定員充足に向けた具体策を入試対策委員会にて審議し実行する。オープンキャンパス等の各種イベントや高校訪問、高校対象のガイダンスなど、本学の魅力を伝えられるような施策を検討し実施する。 [歯学部]定員充足に向けた具体策を入試対策委員会にて審議し実行する。歯学部体験入学等の各種イベントや高校訪問、予備校への広報など、本学の特長をアピールする施策を実施する。 [文学研究科]在学生に対する広報、及び大学院授業科目早期履修制度を実施する。7月に大学院説明会を実施する。 [歯学研究科]在学生に対する広報を実施する。 [保育科]オープンキャンパス、保育科体験フェアを積極的に行う。また紫雲祭や光華祭に継続して参加する。出張講義や高校訪問を積極的に行う。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールする。 [歯科衛生科]本科を認知してもらうために、紫雲祭や光華祭に継続して参加する。出張講義や高校訪問を積極的に行う。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールする。 [専攻科]オープンキャンパスや保育科体験フェアで受験生に対し専攻科を設置していることをアピールする。在学生を対象に専攻科説明会を実施する。	【期末報告】 [入試課]オープンキャンパス7回、歯学部体験入学2回、オープンキャンパスmini4回および平日ふらっとオープンキャンパス開催、進学ガイダンスは資料参加含め延べ260校参加、会場形式進学相談会は資料参加含め延べ51会場参加、入試課(訪問委託含む)による高校訪問・予備校訪問計308校、他各種広告を活用し学生募集に努め、入学者数(1年次入学)は大学・短期大学部総計で497名(昨年度464名)と増加に繋げることができた。しかしながら、入学定員を充足するには至らず、今後さらに認知度向上と進学意欲醸成に努めていく予定である。 [文学部]オープンキャンパスを4月より計6回開催、その他にも平日放課後や9月以降計4回オープンキャンパスmini等を開催し、受験生との接触機会増加を図った。また、教員による出張講義、入試課員による高校ガイダンス、委託業者を中心とした高校訪問等を通して、高等学校教員や生徒へ直接本学の魅力を伝えてきた結果、1年次入学者は284名(昨年度243名)と増加傾向となった。入学定員充足に向け、今後さらに本学の魅力を伝える施策を検討していく。 [歯学部]本年度は、定員充足に向けた具体策について入試対策委員会で継続的に審議・実行し、歯学部体験入学等の各種イベントの開催、高校訪問、予備校への広報活動などを計画どおり実施した。その結果、学部入学者数は留学生3名を含む69名となり、前年度の59名から10名増加した。また、2年次編入学者は17名(前年度13名)、3年次編入学者は4名(前年度と同数)となり、編入学者数も増加した。これらのことから、年度計画は概ね計画どおり実施され、定員充足に向けた目標に対して改善が認められる達成状況となった。一方で、完全な定員充足には至っていない可能性もあることから、今後も広報戦略のさらなる強化および志願者層の拡大に向けた継続的な取り組みが必要である。 [文学研究科]7月10日に大学院文学研究科説明会を開催し、在学生を中心に大学院での学びの周知及び募集広報を行ったが、入学者の増加には至らなかったため、在学生に対する広報等の施策を強化する必要がある。 [歯学研究科]本年度は、歯学研究科への進学促進を目的として、在学生に対する広報活動を実施した。具体的には、研究科の教育内容や研究環境、進路の魅力について周知を図り、進学意欲の喚起に努めた。 [保育科]オープンキャンパス、保育科体験フェアを積極的に行い、参加者・リピーター増につなげた。また紫雲祭や光華祭に継続参加し、出張講義や高校訪問も積極的に行った。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールした。 [歯科衛生科]本科を認知してもらうために、紫雲祭や光華祭に参加し、出張講義や高校訪問も積極的に行った。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールした。 [専攻科]オープンキャンパスや保育科体験フェアで受験生に対し専攻科を設置していることをアピールした。在学生を対象に専攻科説明会を複数回実施した。	B	50%	B	各学部において高校訪問やオープンキャンパス等の学生募集活動が継続的に実施されていることを確認しました。一方で、活動成果と志願者増加との関連性については十分な分析が示されていないため、今後は効果検証を進め、全学的な学生募集戦略の構築に努めてください。
	歯学部の定員管理	歯学部	[歯学部]定員充足率の向上に向けた教育・カリキュラムの魅力発信と学生支援を強化する。 [入試課]歯学部の段階的な入学者数回復をめざし、広告展開や高校・予備校訪問など学生募集広報を強化する。	[歯学部]入学後の学修の充実を通じた教育の質向上、すなわち学習環境の改善やサポート体制を強化し、既存学生の満足度を向上させる。また、オープンキャンパス・説明会を充実させ、歯科医師の明るい将来像を伝えとともに本学の歯学教育や学生支援の魅力を発信する。 [入試課]歯学部の段階的な入学者数回復をめざし、広告展開や高校・予備校訪問などで学生募集広報を強化する。	【期末報告】 [歯学部]本年度は、学生支援体制や学習環境の整備、個別指導・チューター制度、ICT活用の推進により教育の質向上と学生満足度の向上を図った。また、オープンキャンパスや体験入学、高校訪問・予備校広報を通じて、本学歯学部教育内容と将来像の魅力発信を強化した。これらの取組により志願者の関心喚起が進み、定員充足率の改善に寄与した。年度計画は概ね順調に実施され、目標達成に向けた進展が認められる。今後は完全な定員充足に向け、さらなる施策の強化と継続的な改善が必要である。 [入試課]各種広告展開、オープンキャンパスや歯学部体験入学の開催、教職員による高校・予備校訪問を通して本学理解および受験促進に努めた結果、1年次入学志願者は延べ302名(昨年度227名)、同入学者は65名(昨年度59名)となり、志願状況の改善には繋げることができた。さらに来年度以降、入学定員充足を目標として引き続き広報施策を強化する予定である。	B	60%	C	歯学部において、様々な取り組みを行っていることは確認できましたが、教育の質向上と学生満足度の向上を図ったことについては、結果をどのように検証しているのか示してください。 ----- 歯学部の定員管理については、大学認証評価では正勧告を受けています。引き続き、改善・向上に努めてください。
	文学研究科の定員管理	文学研究科	[文学研究科]在学生に対する広報、及び大学院授業科目早期履修制度を実施する。7月に大学院説明会を実施する。 [入試課]オープンキャンパスなどの各種イベントの広報強化により、志願者数の回復をめざす。	[文学研究科]在学生に対する広報、及び大学院授業科目早期履修制度を実施する。7月に大学院説明会を実施する。 [入試課]オープンキャンパスなどの各種イベントの広報強化により、志願者数の回復をめざす。	【期末報告】 [文学研究科]7月10日に大学院文学研究科説明会を開催し、在学生を中心に大学院での学びの周知及び募集広報を行ったが、入学者の増加には至らなかったため、在学生に対する広報等の施策を強化する必要がある。 [入試課]大学院文学研究科説明会の開催等で周知に努めたが、入学者は2名に留まる結果となった。今後、さらに周知方法等を検討していく。 【追加報告】 [入試課]大学院文学研究科説明会については、早期からの進学意識醸成の観点から、学内外・参加学年を限定せず、かつ予約等を取らず自由参加としているが、本学4年次の参加者には学内推薦入学試験の募集要項を提供しており、2026年度入学者2名はいずれも学内推薦入学試験によるため、例年の開催により進学意識醸成および実際の志願者確保には一定の効果があるものと推定される。周知方法については、学内ポスターや本学受験生応援サイト、各学科教員の協力により行っているが、引き続き適切な開催時期を含め、開催に係る検討を行っていく。	C	10%	C	説明会の実施状況は確認できましたが、説明会の周知方法や参加者数、ならびに参加者が実際の出願・入学に繋がっているか等の検証は行われているでしょうか。実施している場合は、結果を追記してください。 ----- 文学研究科の定員管理については、大学認証評価で改善課題が付されています。引き続き、改善・向上に努めてください。

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
定員管理・学生募集	短期大学部の定員管理	短大	[保育科]オープンキャンパス、保育科体験フェアを積極的に行う。また紫雲祭や光華祭に継続して参加する。出張講義や高校訪問を積極的に行う。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールする。 [歯科衛生科]本科を認知してもらうために、紫雲祭や光華祭に継続して参加する。出張講義や高校訪問を積極的に行う。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールする。 [専攻科]オープンキャンパスや保育科体験フェアで受験生に対し専攻科を設置していることをアピールする。在学生を対象に専攻科説明会を実施する。 [入試課]オープンキャンパス等の学内進学イベント及び高校ガイダンス、学外進学相談会等で、積極的に短期大学部の案内を行い、進学意欲を醸成する。また、各種広告媒体を活用し、短期大学部の周知を行う。	[保育科]オープンキャンパス、保育科体験フェアを積極的に行う。また紫雲祭や光華祭に継続して参加する。出張講義や高校訪問を積極的に行う。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールする。 [歯科衛生科]本科を認知してもらうために、紫雲祭や光華祭に継続して参加する。出張講義や高校訪問を積極的に行う。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールする。 [専攻科]オープンキャンパスや保育科体験フェアで受験生に対し専攻科を設置していることをアピールする。在学生を対象に専攻科説明会を実施する。 [入試課]オープンキャンパス等の学内進学イベント及び高校ガイダンス、学外進学相談会等で、積極的に短期大学部の案内を行い、進学意欲を醸成する。また、各種広告媒体を活用し、短期大学部の周知を行う。	【期末報告】 [保育科]オープンキャンパス、保育科体験フェアを積極的に行い、参加者・リピーター増につながった。また紫雲祭や光華祭への継続参加、出張講義や高校訪問を積極的に行った。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールした。 [歯科衛生科]本科を認知してもらうために、紫雲祭や光華祭に参加し、出張講義や高校訪問も積極的に行った。離島の指定校を増やし、受験・進学特典をアピールした。 [専攻科]オープンキャンパスや保育科体験フェアで受験生に対し専攻科を設置していることをアピールするため、展示物などを工夫した。在学生を対象に専攻科説明会を複数回実施した。 [入試課]オープンキャンパス等の学内進学イベント、高校ガイダンスや学外進学相談会で積極的に短期大学部の案内・理解促進を行い、各種広告媒体も活用して短期大学部の周知に努めた結果、保育科は入学者70名(昨年度56名)と回復傾向となったが、歯科衛生科は入学者78名(昨年度106名)と減少してしまったため、今後さらに積極的に短期大学部の周知を行う予定である。 【追加報告】 [保育科]オープンキャンパス、保育科体験フェアと並行して「保育体験」を附属三松幼稚園と總持寺保育園で実施した。定員に限りがあるが、参加した高校生の満足度は高く、工夫して根付かせていきたい企画となった。高校からの出張講義の要望に応え、多くの受験生確保につながった高校もあったことから、関係づくりをより丁寧にしていく方向性を確認することができた。離島の受験・進学特典をアピールした結果として、『島の子受験・進学特典』を申請した新入生が1名いた。 [歯科衛生科]紫雲祭の歯科衛生科ブースに指定校推薦希望者が来校し、個別相談を行った。他受験年齢にない若年者が多かったが、保護者も含めアピールを行った。光華祭では受験層、それ以下の若年者に対し対応し今後につながるように活動した。出張講義を行った高等学校より入学者がいたため、学生周知を今後も継続するのが望ましい。離島の指定校を増枠したが本年度においては結果が得られなかった。単年度の方策ではないことから引き続き受験・進学特典をアピールしていく。	B	40%	C	各学科が行ってきた募集活動等は確認できましたが、活動内容や離島の指定校を増やした結果の効果検証について記載が不足しています。分析を行っている場合はその結果および今後の改善策について追記して下さい。 追加報告により、効果について確認できました。短期大学部の定員管理については、大学認証評価で是正勧告を受けています。引き続き、改善・向上に努めてください。
入試判定基準の見直しによるAPの実質化(大学教育に相応しい学生の選抜)	入試区分別の妥当性についての検証(成績・GPAを含む)	入試センター事務部	[入試課]各学部入試対策委員会において、各入試の判定基準について振り返り、次年度の入試策定に反映する。 [文学部]入試対策委員会において、各入試の選抜方法について審議。入試区分毎に、成績・GPAを分析する。 [歯学部]入試区分毎に、成績・GPAを分析する。 [保育科]入試区分毎に、成績・GPAを分析する。 [歯科衛生科]入試区分毎に、成績・GPAを分析する。	[入試課]各学部入試対策委員会において、各入試の判定基準について振り返り、次年度の入試策定に反映する。 [文学部]入試対策委員会において、各入試の選抜方法について審議。入試区分毎に、成績・GPAを分析する。 [歯学部]入試区分毎に、成績・GPAを分析する。 [保育科]入試区分毎に、成績・GPAを分析する。 [歯科衛生科]入試区分毎に、成績・GPAを分析する。	【期末報告】 [入試課]各学部入試対策委員会において、実際の入学・学修状況を踏まえて選抜方法を慎重に策定し、3月より新年度の入試概要を公表した。 [文学部]入試対策委員会より各入試の選抜方法に関して各学科にて検討した。選抜の妥当性を考慮した選抜方法を取りまとめて令和9年度入試の策定を行い、3月に選抜方法を確定し公表を行った。 [歯学部]本年度は、入試区分別の妥当性検証に向け、各区分ごとの成績およびGPAの分析を実施した。分析結果を踏まえ、入学後の学修状況との関連性について基礎的な検証を行い、入試区分ごとの傾向把握を進めた。また、教務課および入試課と情報を共有し、分析結果の活用に向けた連携体制の整備を図った。 [保育科]入試区分毎に、成績・GPAを分析した。 [歯科衛生科]入試区分毎に、成績・GPAを分析した。 【追加報告】 [保育科]入試区分別の妥当性検証に向け、各区分ごとの成績およびGPAの分析を実施した。分析結果ならびに入学後の学修状況との関連性についても検証を行い、入試区分ごとの傾向把握を進めた。 [歯学部]本年度は、入学予定者を対象に、東進ハイスクールナガセによる入学前準備教育(DVD講座)を受益者負担にて実施した。また、入学前オリエンテーション時における理系一般教育科目の課題提供および教員による双方向指導体制の導入について検討を行った。これにより、入学前からの学習習慣の形成および基礎学力の底上げに向けた取組を推進した。 [保育科]早期入学決定者を対象に、対面での入学前教育プログラムを実施した(附属三松幼稚園の行事と連動する形での実施)。また、欠席者や12月以降の入学決定者に対しては動画などを用意し、入学前プログラムに代替できる内容の課題を課した。希望者を対象にピアノの入学前指導を実施した。 [歯科衛生科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施。有料プログラムとして入学前準備教育(DVD講座)を実施。	B	50%	B	保育科ならびに歯科衛生科においては、入試区分別の成績やGPA等の分析結果から、APとの整合性についてどのような検証を行ったのか追記してください。 追加報告により傾向把握に努めていることは確認できましたが、今後は妥当性の検証にも努めてください。
入学前教育の充実	入学前準備教育プログラムの構築・実施	全学	[文学部]12月までの入学予定者を対象として、必修で入学前準備教育課題を実施する。 [歯学部]12月までの入学予定者を対象(任意)に東進ハイスクールナガセの入学前準備教育(DVD講座)を受益者負担で実施。また、入学前オリエンテーション時に理系一般教育科目の課題を供与し、担当教員との双方向指導による事前教育を検討。 [保育科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施する。希望者を対象にピアノの入学前指導を実施する。 [歯科衛生科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施。有料プログラムとして入学前準備教育(DVD講座)を実施。	[文学部]12月までの入学予定者を対象として、必修で入学前準備教育課題を実施する。また、入学前オリエンテーションを2回開催し、歯学教育の学び方や学生生活について事前に伝える。 [歯学部]12月までの入学予定者を対象(任意)に東進ハイスクールナガセの入学前準備教育(DVD講座)を受益者負担で実施する。また、入学前オリエンテーション時に理系一般教育科目の課題を供与し、担当教員との双方向指導による事前教育を実施する。 [保育科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施する。希望者を対象にピアノの入学前指導を実施する。 [歯科衛生科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施。有料プログラムとして入学前準備教育(DVD講座)を実施。	【期末報告】 [文学部]12月までの入学予定者全員(204名)を対象に課題を送付し、必修で入学前準備教育課題を実施した。(内訳)総合型選抜:日本文学科22名、英語英米文学科13名、文化財学科16名、ドキュメンテーション学科13名、学校推薦型選抜:日本文学科48名、英語英米文学科37名、文化財学科24名、ドキュメンテーション学科30名、編入学試験1期:日本文学科1名 [歯学部]本年度は、入学予定者を対象に、東進ハイスクールナガセによる入学前準備教育(DVD講座)を受益者負担にて実施した。また、入学前オリエンテーション時における理系一般教育科目の課題提供および教員による双方向指導体制の導入について検討を行った。これにより、入学前からの学習習慣の形成および基礎学力の底上げに向けた取組を推進した。 [保育科]早期入学決定者を対象に、対面での入学前教育プログラムを実施した(附属三松幼稚園の行事と連動する形での実施)。また、欠席者や12月以降の入学決定者に対しては動画などを用意し、入学前プログラムに代替できる内容の課題を課した。希望者を対象にピアノの入学前指導を実施した。 [歯科衛生科]入学予定者に必修課題として全員を対象に入学前教育課題を実施。有料プログラムとして入学前準備教育(DVD講座)を実施。必修課題は入学者106名が受講した。有料プログラム受講者は、基礎計算力完成コース3名、医療系生物入門(基礎生物①)コース9名、医療学生のための国語力入門コース1名、基礎から始める国語力トレーニングコース4名、基礎から始める数学トレーニングコース3名、コミュニケーション養成①(PaCSあり)コース3名であった。	A	70%	B	前年度評価コメントの【効果検証の「見える化」】や【有料講座の利用が限定的であること】については検討は進んでいるでしょうか。2026年度の報告時に、併せて示してください。

【Ⅰ. 教育】 1.定員管理の適正化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
本学の魅力を伝える外部アプローチ	高校訪問・予備校訪問の継続・強化	入試センター 事務部	現在実施している歯学部・短期大学部教員による高校訪問、入試課員による高校ガイダンス参加による訪問や個別の予備校訪問に加え、外部委託要員により、東京都・神奈川県の高校や予備校への訪問を強化する。	現在実施している歯学部・短期大学部教員による高校訪問、入試課員による高校ガイダンス参加による訪問や個別の予備校訪問に加え、外部委託要員により、東京都・神奈川県の高校や予備校への訪問を強化する。	【期末報告】 年間を通し、歯学部教員による高校訪問172校(資料送付を含む)、短期大学部教員による高校訪問98校、入試課および外部委託要員による高校訪問195校(資料送付を含む)、予備校訪問151校(資料送付を含む)の実績であったほか、入試課員による高校ガイダンス参加も延べ260校(資料参加含む)であった。それにより、全体の志願者数(1年次入学希望)も延べ955名(昨年度799名)と増加し、本学の周知に一定の効果はあったものと考える。今後も引き続き、訪問先を精査のうえ強化していく予定である。	A	70%	A	高校訪問やガイダンス参加により、志願者増に繋がっていることが確認できました。今後は、どの活動がより効果的であるかなどの分析も進めてください。

【Ⅰ. 教育】 2.教育課程の改善(DPの質保証)

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
歯学部:歯科医師国家試験合格率の向上を目指したカリキュラム改革	国家試験支援体制の整備(専門スタッフの配置等)	歯学部 教務課	歯科医学教育学講座と他講座間との連携体制の強化を図ることにより、歯学部全体での国家試験支援体制の充実を図る。	カリキュラム方針の策定(カリキュラム委員会・歯科医学教育学講座)、教育指導(総合歯科医学6実行委員会)、国家試験の問題分析・国家試験を見据えた試験問題作成(問題作成分析評価委員会)の連携強化を図る。	【期末報告】本年度は、歯科医師国家試験合格率の向上を目的として、歯科医学教育学講座、カリキュラム委員会、総合歯科医学6実行委員会等の連携強化を図り、教育内容および評価方法の一体的運用を推進した。また、国家試験問題の分析結果を各講座へフィードバックし、授業改善や試験問題作成に反映する体制を整備した。さらに、個別指導の充実や学内外の模擬試験の実施により、学修到達度の可視化と弱点克服に向けた支援を行った。 【追加報告】 国家試験支援の効果については、学内外の模擬試験結果を継続的に分析するとともに、個別指導等を行った学生のその後の成績推移を確認した。これらの取組を通じて一定の成果は認められたものの、昨年度と比較して明確な改善効果を示すまでには至らなかった。今後は、これまでの支援内容と成績推移との関連をさらに検証し、学生個々の学修状況に応じた教育・支援体制の改善につなげていく。	B	40%	B	体制の整備と支援内容については確認できましたが、その結果として、効果が出た事例があれば、報告してください。 ----- 追加報告について確認しました。明確な改善効果は得られなかったとのことですので、引き続き、効果検証と整備を進めてください。
文学部:学修意欲(モチベーション)を引き出す教育改革	PBL・アクティブラーニングの導入	文学部 教務課	[文学部]科目の特性から判断して、教授法として実学志向の課題解決型アクティブラーニングが適切でかつ教育効果が高い科目において実施する。	[文学部]科目の特性から判断して、教授法として実学志向の課題解決型アクティブラーニングが適切でかつ教育効果が高い科目において実施する。	【期末報告】 [文学部]令和7年度開講の実務家教員が担当している科目141科目中、92科目(65.2%)でアクティブラーニングを実施した。	B	50%	B	実施状況を踏まえ、今後は学生の学修意欲(モチベーション)向上にどのように結びついているかといった教育効果の検証が望まれます。 【外部委員】 実際にディプロマ・ポリシー(DP)の達成にどう寄与したかという「教育効果の客観的検証」が出遅れており、進捗率は50%に留まる。シラバス上の記載の充実だけでなく、学修成果をルーブリック等で可視化・検証する仕組みの構築が必要である。
	文学部:学科ごとの「求める学生像」の明確化	入試センター 事務部	文学部各学科のアドミッション・ポリシー策定を受け、アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜方針を入試区分毎に策定する。それにより、学科毎の求める学生像が受験生へ理解できるようにする。	文学部各学科のアドミッション・ポリシー策定を受け、アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜方針を入試区分毎に策定する。それにより、学科毎の求める学生像が受験生へ理解できるようにする。	【期末報告】 文学部各学科のアドミッション・ポリシー策定を待っている状況ではあるが、総合型選抜等において各学科が求める学生像を受験生へ周知するよう努めた。	B	50%	C	各学科の特色が伝わるアドミッション・ポリシーの作成を進めていくことが望まれます。 【外部委員】 高校訪問やオープンキャンパスでの効果的な発信に向けた準備が進む一方で、各学科の教育現場が求める学生像のアップデートとの間に乖離が見られ、全学的な高大接続のビジョンが共有されていない。
大学院:学習成果の把握及び評価	文学研究科:授与する学位ごとのポリシーの設定	文学研究科	[文学研究科]授与する学位(文学、文化財学)ごとのポリシーを設定する。	[文学研究科]授与する学位(文学、文化財学)ごとのポリシーを設定する。	【期末報告】 授与する学位(文学、文化財学)ごとのポリシーを設定した。	S	100%	S	設定された学位授与方針に基づき、教育の質向上を図っていくことが望まれます。
	学位授与方針に示した能力等を測定する手法の開発	大学院	[文学研究科]アセスメントポリシーを設定し、口述諮問時に学位授与方針に示した能力等を測定する。 [歯学研究科]学位授与方針に基づき、大学院生の学習成果を適切に測定・評価する手法を確立する。	[文学研究科]アセスメントポリシーを設定し、口述諮問時に学位授与方針に示した能力等を測定する。 [歯学研究科]研究成果の評価基準を明確化し、論文・発表など多面的な評価手法を確立する。	【期末報告】 [文学研究科]文学研究科将来計画委員会で継続検討中。 [歯学研究科]学位授与方針に基づき、研究成果の評価においては、論文および学会発表等を含む多面的な評価の枠組みについて検討を行った。さらに、研究経過報告会での発表を必須とし、研究成果の発信能力の向上を図った。	C	20%	C	各学部ともに引き続き検討を進めていただき、学習成果の把握・評価に取り組んでください。 【外部委員】 委員会での継続検討や、学位論文・学会発表評価の枠組み検討という初期段階に留まっており、具体的な測定ツールの運用に至っていない。

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
短大部：国家試験 合格率の向上	歯科衛生士国家 試験の合格率向 上	歯科衛 生科	[歯科衛生科]歯科衛生士国家試験の合格率向 上に向けて、国家試験対策の強化を図る。	[歯科衛生科]1年次から国家試験対策の強化・ 保護者面談の早期実施・国家試験直前対策の 強化。	【期末報告】 [歯科衛生科]1年次から国家試験対策の強化・保護者面談の早期実施・国家試験直前 対策の強化を図った。受験生(3年生)へは、早期から出題数の多い主要3科目に対して の対策を実施し、さらに少人数グループでの指導を行った。定期的に全国模擬試験を行 い、その結果を指導に繋げた。 外部講師(医歯薬研修協会)による授業を開催し、国家試験への心構えや準備、勉強の 方法等について講義を行った(R7.9.22)。 ※根拠資料あり	A	80%	A	外部講師による授業の開催など、 新たな取り組みも確認できました。 引き続き、合格率の向上へ向け て、強化を図っていただきます。
学位の質保証 PDCAサイクルの 構築	3つのポリシーを 踏まえた学修成 果の点検・評価方 法の確立とその運 用	全学	[文学部]卒業時アンケートを基に、学修成果の 点検・評価を行う。 [歯学部]卒業時アンケートを基に、学修成果の 点検・評価を行う。また、隔週でカリキュラム委員 会を開催し検討を行う。 [保育科]卒業時アンケートを基に、学修成果の 点検・評価を行う。 [歯科衛生科]卒業時アンケートを基に、学修成 果の点検・評価を行う。	[文学部]卒業時アンケートを基に、学修成果の 点検・評価を行う。 [歯学部]卒業時アンケートを基に、学修成果の 点検・評価を行う。また、隔週でカリキュラム委員 会を開催し検討を行う。 [保育科]卒業時アンケートを基に、学修成果の 点検・評価を行う。 [歯科衛生科]卒業時アンケートを基に、学修成 果の点検・評価を行う。	【期末報告】 [文学部]卒業時アンケートを基に、学修成果の点検・評価を行った。 [歯学部]本年度は、卒業時アンケートを実施し、その結果を基に学修成果の点検・評価 を行った。また、隔週でカリキュラム委員会を開催し、3つのポリシーを踏まえた教育課程 の妥当性について継続的に検討した。これにより、学修成果の可視化と教育改善に向け た検討体制の運用が着実に進展した。年度計画は概ね順調に実施され、評価方法の実 践的運用が図られた。 [保育科]卒業時アンケートを基に、学修成果の点検・評価を行った。 [歯科衛生科]卒業時アンケートを基に、学修成果の点検・評価を行った。	B	50%	B	卒業時アンケート(学生の主観・満 足度)による評価に留まっているた め、今後は客観的データ(学修成 果の直接評価等)を組み合わせた 点検・評価への発展を求めます。 【外部委員】 一部の学部や短大部で個別的な 評価手法の試みはあるものの、大 学全体として統一された教学マネ ジメントの枠組みや、定期的な点 検・評価を自動的に回すシステム 構造の標準化が達成されていない 印象を受ける。
	GPA制度による進 級・卒業判定、退 学勧告への活用	全学	[文学部]GPAを退学勧告に活用している。なお、 退学勧告については、強制力があるものではな く、学生の進路変更について指導することを目的 とするものである。 [歯学部]教育指導を行う目安や特待生選考の 指標として活用する。 [保育科]GPA制度により進級・卒業判定を行 い、指導を実施。 [歯科衛生科]GPA制度により進級・卒業判定を 行い、退学勧告の措置を含めた指導を実施。	[文学部]GPAを退学勧告に活用している。なお、 退学勧告については、強制力があるものではな く、学生の進路変更について指導することを目的 とするものである。 [歯学部]教育指導を行う目安や特待生選考の 指標として活用する。 [保育科]GPA制度により進級・卒業判定を行 い、指導を実施。 [歯科衛生科]GPA制度により進級・卒業判定を 行い、退学勧告の措置を含めた指導を実施。	【期末報告】 [文学部]GPA制度を退学勧告に活用しており、履修要項にも記載している。 [歯学部]本年度は、第2学年以上を対象にGPAを算出し、学修状況の把握および教育 指導の参考指標として活用した。また、特待生選考や個別指導の目安としてもGPAを用 い、学生支援に資する運用を行った。第1学年についてはGPAは未導入であるが、成績 分布に基づき学修状況の評価を実施した。これにより、学年ごとの特性に応じた評価・指 導体制の運用が図られた。 [保育科]GPA制度により進級・卒業判定を行い、必要に応じて担任から個別指導を実 施した。 [歯科衛生科]GPA制度により、各セメスター終了時にGPA1.0以下の学生への学修指導 を実施。対象学生を歯科衛生科専任教員全員が把握し配慮すると共に、担任から指導 を行った。結果については教務委員会で報告を行った。	A	70%	A	GPAに基づき、対象学生への面 談・指導が実施されていることを確 認しました。今後は、指導により学 業成績や修学意欲の改善が見ら れた好事例を学内で共有・蓄積す る体制を構築し、さらなる指導の質 の向上に繋げることを期待します。
	学修成果の可視 化	教務事 務部	[文学部]学習支援ツール(manaba)によるポー トフォリオを活用して学修成果を可視化する。 [歯学部]CBT対策として総合歯科医学4にお いて受講記録表を活用し、担任指導の下、学生 自身で学習計画の管理を行う。 [保育科]進級時に履修カルテを記入し、各教科 の学修成果の可視化を行う。 [歯科衛生科]ステップアップノートを活用し、各 教科の学習成果の可視化を行う。 manabaのアンケート機能を利用して、現行のス テップアップノートの記録を行う。	[文学部]学習支援ツール(manaba)によるポー トフォリオを活用して学修成果を可視化する。 [歯学部]CBT対策として総合歯科医学4にお いて受講記録表を活用し、担任指導の下、学生 自身で学習計画の管理を行う [保育科]進級時に履修カルテを記入し、各教科 の学修成果の可視化を行う。 [歯科衛生科]ステップアップノートを活用し、各 教科の学習成果の可視化を行う。 manabaのアンケート機能を利用して、現行のス テップアップノートの記録を行う。	【期末報告】 [文学部]学習支援ツール(manaba)によるポートフォリオの導入は既に実施しており、活 用している。 [歯学部]本年度は、CBT対策として「総合歯科医学4」において受講記録表を活用し、学 修成果の可視化を推進した。クラス担任の指導のもと、学生自らが学習計画を立案し、 計画的な学修を実践できるよう支援を行った。 [保育科]進級時および2年後期のスタート時に履修カルテを記入し、各教科の学修成果 の可視化を行った。 [歯科衛生科]ステップアップノートを活用し、各教科の学習状況を把握した。manabaの アンケート機能を利用して、現行のステップアップノートの記録を行った。	A	80%	A	システム利用や記録による学習成 果の可視化を行っていることは確 認できました。今後は、得られた データの活用法の検討についても 期待します。
	履修上限の設定	全学	[文学部]卒業所要単位に算入される科目は、既 に履修上限が設定されている。卒業所要単位に 算入されない資格取得科目を履修する学生に対 しては、履修・学修のサポートを行う。 [保育科]履修単位の登録上限を64単位と設定 している。 [歯科衛生科]履修単位の登録上限を53単位と 設定している。	[文学部]卒業所要単位に算入される科目は、既 に履修上限が設定されている。卒業所要単位に 算入されない資格取得科目を履修する学生に対 しては、履修・学修のサポートを行う。 [保育科]履修単位の登録上限を64単位と設定 している。 [歯科衛生科]履修単位の登録上限を53単位と 設定している。	【期末報告】 [文学部]卒業所要単位に算入される科目は、既に履修上限が設定されている。卒業所 要単位に算入されない資格取得科目を履修する学生に対しては、履修・学修のサポート を行った。 [保育科]履修単位の登録上限を64単位と設定している。 [歯科衛生科]履修単位の登録上限を53単位と設定している。	B	50%	B	既に履修上限は設定されています が、認証評価においては実状の取 り組みを遂行しつつ、より一層単 位の実質化に努めることが望まれ ているため、引き続き検討を求め ます。 【外部委員】 文学部において資格取得科目の 除外措置や、上限の妥当性に関 する検証が不十分であり、全学進 捗は50%に留まる。学生の過度な 学修負担の軽減と、1単位あたりの 学修時間の質保証が両立できて いるか、判断が厳しい状況であ る。

【Ⅰ. 教育】 2.教育課程の改善 (DPの質保証)

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
学位の質保証 PDCAサイクルの 構築	授業評価アンケート・授業公開を活用した改善	教務事務部	[文学部]授業改善アンケート結果を基に教員表彰を実施する。また、表彰された教員が講演者となり、授業上の工夫等が共有される場を設ける。授業公開を実施し、より良い授業運営を実施できるようにする。 [歯学部]授業評価アンケートをmanabaで実施し高評価者はベストティーチャー賞として表彰、また教員間での授業評価アンケートを実施し、フィードバックを行う。 [保育科]前期・後期授業アンケートをmanabaで実施。教員間での授業公開を実施。 [歯科衛生科]前期・後期授業アンケートをmanabaで実施し、検証を行う。また、教員間での授業公開を実施し、フィードバックを行う。	[文学部]授業改善アンケート結果を基に教員表彰を実施する。また、表彰された教員が講演者となり、授業上の工夫等が共有される場を設ける。授業公開を実施し、より良い授業運営を実施できるようにする。 [歯学部]授業評価アンケートをmanabaで実施し高評価者はベストティーチャー賞として表彰、また教員間での授業評価アンケートを実施し、フィードバックを行う。 [保育科]前期・後期授業アンケートをmanabaで実施。教員間での授業公開を実施。 [歯科衛生科]前期・後期授業アンケートをmanabaで実施し、検証を行う。また、教員間での授業公開を実施し、フィードバックを行う。	【期末報告】 [文学部]授業公開を6/18～7/15の期間で実施した。授業改善アンケート結果を基に教員表彰を実施した。また、表彰された教員が講演者となり、実践・情報報告会を下記の通り実施した。 日時: 6月12日(木) 16:30～18:00 演題: 自律的読者育成のためのFree Voluntary Reading 講演者: 深谷素子教授(英語英米文学科) [歯学部]本年度は、manabaを用いて授業評価アンケートを実施し、学生による授業評価を収集した。また、教員間での授業評価も実施し、相互フィードバックを通じて授業改善に取り組んだ。 [保育科]前期・後期授業アンケートをmanabaで実施した。教員間で前期・後期に授業公開を実施し、フィードバックを行った。授業アンケート結果を基に教員表彰を実施した。 [歯科衛生科]前期・後期授業アンケートをmanabaで実施した。授業アンケートの結果を基に、授業改善の検討資料に活用した。また、授業改善アンケート結果を基に教員表彰を実施した。前期・後期の授業公開を実施し、教員同士による相互評価を行った。	A	80%	B	実施内容については確認できましたが、今後は実施した結果、改善に繋がった事例などの報告も求めます。
	学生アンケート調査等による学生からの意見・要望を活かす仕組みづくり	総合企画課	「学生の学修・生活に関する調査」ならびに「卒業時調査報告書」を学内で共有・議論する。	教学マネジメント会議のみならず、大学運営協議会においても各学部・事務部に共有し、具体的な意見を聴取する。	【期末報告】 2種類の学生アンケートについて、全学教学マネジメント会議で報告を行い、大学運営協議会でも広く周知した。 ・「2024年度 卒業時アンケート調査」2025年3月3日～14日実施。対象: 卒業生・修了生。全体回答率 45.3%。 ・「2025年度 学生の学修・生活に関する調査」2025年3月26～5月31日実施。対象: 文学部・歯学部・短期大学部 学部生。全体回答率 60.5%。	A	10%	B	アンケート回答率向上と、回答内容を活かす仕組みづくりの検討も進めてください。 【外部委員】 全体の進捗率はわずか10%と極めて低い。データの回収率の低さ自体が課題であると同時に、得られた数字を具体的なカリキュラム改善へと繋げるプロセスが完全に形式化している。
	卒業生のキャリア(就職・進学等)の状況の把握と教育活動等の改善	キャリア支援課	文学部卒業生の就職等に関するアンケートを実施 短期大学部卒業生・就職先への就職等に関するアンケートを実施	2通りの回答方法を用意(Googleフォーム・紙面)	【期末報告】 文学部の回答率は全体で7.9%(昨年6.7%)。短大部の卒業生は回収率13.4%(昨年14.7%)、就職先は回収率56.8%(昨年55.5%)。結果について、文学部は就職対策委員会、短大部は進路対策委員会にそれぞれ報告を行った。※根拠資料あり	B	30%	B	アンケート回答率向上に向けた検討も進めてください。 【外部委員】 卒業生側のデータが不足しているため、双方のデータを突き合わせて「社会やキャリアが求める教育水準への反映」を行うための改善プロセス(進捗30%・外部評価C)が上手く機能していない。

【Ⅰ. 教育】 3.学生支援の充実

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
中途退学理由の 解明と対策の実 施(集中的な退学 者対策)	中退対策の成果 検証と改善方策	全学	[文学部] GPA1.0未満の学生の修学指導を行う。 学籍異動の際には「学籍異動調査票」に記録し学科内で情報共有する。 [歯学部] 中途退学の主な要因を特定し、学修・生活の各面から総合的な支援体制を強化する。 [保育科] 担任制を採用し、欠席2回で担任が学生と連絡を取り修学指導を行う。 [歯科衛生科] 担任制を取り、欠席2回で担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。	[文学部] GPA1.0未満の学生の修学指導を行う。 学籍異動の際には「学籍異動調査票」に記録し学科内で情報共有する。 [歯学部] 学業不振・学習意欲の低下・経済的困難・学生生活への適応不全などの退学対策を進めるために学習サポートやチューター制度の充実、奨学金・学費支援制度の活用の促進、退学者の推移分析、担任・学年主任による退学未然防止のための定期的な面談を実施する。 [保育科] 担任制を採用し、欠席2回で担任が学生と連絡を取り修学指導を行う。 [歯科衛生科] 担任制を取り、欠席2回で担任が学生と連絡を取り長期欠席を防ぐ。	【期末報告】 [文学部]成績不良者(GPA1.0以下)との面談を実施。「学籍異動調査票」に記録し学科内で情報共有した。 [歯学部]本年度は、中途退学の要因分析を行い、学習サポートやチューター制度の充実、奨学金・学費支援制度の活用促進、退学者推移の継続的分析を実施した。また、担任および学年主任による定期面談を通じて早期支援体制を強化し、学業不振や学生生活への適応不全への対応を図った。その結果、留年率および退学率はいずれも前年度より改善し、中退対策の効果が認められた。 これにより、総合的な学生支援体制の有効性が示され、年度計画は概ね順調に実施されたと評価できる。 [保育科]担任制を採用し、欠席2回で担任が学生と連絡を取り修学指導を行った。必要に応じて、担任が保護者・保証人とも連絡を取り合い、連携を図った。 [歯科衛生科]担任制を取り、欠席2回で担任が学生と連絡を取り長期欠席を防いだ。担任による個人面談、実習前後の実習担当教員による個人面談を実施した。	C	40%	B	面談実施等については確認できますが、前年度の評価コメントにもある成果検証と改善方策についての検討・報告が望まれます。

【Ⅰ. 教育】 3.学生支援の充実

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
学生一人ひとりが 安心できる環境の 整備	多様な学生への 支援強化	包括支 援課	[包括支援課]障がいのある学生への修学支援のため、在学生の協力を得て、学生サポーター制度による活動を開始する。 [学生支援課]学内外の各種学内奨学金の周知をはかり、学生に対する経済的支援を適正に行う。学生が相談に訪れやすい窓口となるよう、関係各所と連携し、学生のサポートをしていく。 [キャリア支援課]傾聴を通じて学生一人ひとりの状況に応じたサポートを行い、キャリア形成を支援する。	[包括支援課]在学生に対し、学生サポーターの募集を行う。学生サポーターとして登録した学生について、支援内容に応じた研修を行い、障がい学生支援のための活動を行ってもらう。 [学生支援課]オリエンテーションやポータルサイト、学内掲示板を活用し、奨学金情報の告知を行う。 [キャリア支援課]資格を有したキャリアアドバイザーを中心に個人面談を実施。対応困難な学生に対し専門の資格を有するスタッフがその知見を活かしつつ就職支援。	【期末報告】 [包括支援課]学生サポーター募集の説明会を10月14日・15日の2日間開催し、合計6名の学生が参加した。支援学生とは定期的な面談を実施しており、学生の状況を把握し、支援ニーズの確認を行っている。学生サポーターとして登録された学生にバリアフリーマップの更新作業を行った。 [学生支援課]学内外の各種奨学金制度について、掲示・ホームページ・ポータルサイト等を通じて周知を行い、学生への経済的支援の適正な実施を図っている。また、学生が気軽に相談できる窓口となるよう、学生支援課を中心に関係部署と連携し、奨学金に関する問い合わせや家計支援等の相談対応を行っている。引き続き、奨学金情報の周知方法の改善や、個別相談体制の充実に努め、学生の経済的・精神的サポートの強化を図っていく。日本学生支援機構奨学金等の奨学金の周知に加え、JASSOの「学生のための食支援事業」補助金を活用し、物価高に対応した食支援を実施した。 [キャリア支援課]資格を有するキャリアアドバイザーが、学生一人ひとりの状況に応じた個別面談を継続的に実施。対応が難しい学生には、専門的知見を有するスタッフが連携し、適切な支援を提供している。一般雇用と障害者雇用の違いなど、障害者雇用の制度についてまとめた動画を作成し学生に公開・案内を行った。	S	40%	A	各課による支援体制を確認しました。引き続き、支援を強化していただくと共に、効果検証も進めてください。

【Ⅱ. 研究】 1.学部 の枠を超えた学際的研究環境の構築

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
研究意欲の喚起・ 推進	研究・教育業績と 連動した研究費の 配分の見直し(助教 以上科研費申請なし で研究費減額)	教育研究 支援課	専任教員以上の科研費の申請や外部資金の獲得を喚起する	科研費等外部資金の獲得に向けてセミナーなどの受講を推進する	【期末報告】 科研費等外部資金獲得のための動画を案内し、視聴させた。 毎年の科研費申請状況のデータ資料作成及び各種助成金等研究者への案内を今後も引き続き継続していく。	B	80%	B	取り組みについて確認できました。今後は取り組みについての効果検証も進めてください。
	教員の年次研究 計画の作成と審査 の実質化	教育研究 支援課	2024年度教員の研究報告書を提出させ、2025年度教員の研究計画報告書を提出させる。	各教員、講座へ提出依頼を実施。期日を設けて提出させる。	【期末報告】 全学部・全学科の教員より提出され、学長に報告済み。	S	90%	B	年次研究計画書・報告書の管理については確認できました。今後は「審査の実質化」についても検討を進めてください。
	科研費申請の推進 指導、サポート体制 の強化	教育研究 支援課	科研費申請の推進指導、サポート体制強化	・科研費の各種目ごとの公募通知を実施する。 ・科研費学内説明会を開催する。	【期末報告】 科研費の各項目について、公募通知を実施した。(2025.7.14) 外部資金獲得支援のための動画講座を配信した。(2025.6.24、2025.7.1) ※根拠資料あり	A	90%	B	推進指導やサポート体制については確認できましたが、今後は実績値についても報告を求めます。
	附置研究機関の 活動の検証	教育研究 支援課	[教育研究支援課]附置研究所の活動方針を明確化し、サポートを強化する [仏教文化研究所]仏教文化についての研究と研究成果の一般公開をより一層充実させていく [国際交流センター]研究者・学生の国際共同研究の促進と支援体制を強化する。 [公共医科学研究センター]外部資金調達等を基礎として、公共の利益に資する研究を促進する。	[教育研究支援課]各附置研究所に詳細な事業計画を立てさせ、実施に向けてサポートしていく。 [仏教文化研究所]公開シンポジウムの実施・研究例会の実施・紀要の発行・鶴見ヶ丘学術協力委員会との連携強化・大本山總持寺宝蔵館との連携強化・大本山總持寺祖院との連携強化・伝光録に関する研究の充実 [国際交流センター]海外大学・研究機関とのMOU締結および共同研究プロジェクトを推進すると共に研究成果の国際発信のため、大学院生に対して交流支援を行い、英語論文執筆およびプレゼンテーション研修を実施する。 [公共医科学研究センター]死因究明等の事業活動に関する司法当局(県警、海保等)及び関係事業における有識者との意見交換会の発展、法制の神奈川県死因究明推進協議会における本学事業活動の報告の充実、それらに関連する学会・シンポジウム等の開催について具体的に準備する。	【期末報告】 [教育研究支援課]研究に支障がないよう、各附置研究所と連携し、連絡調整や委員会業務等のサポートを行った。 [仏教文化研究所・公共医科学研究センター]事業計画に則り、研究活動等を行った。 ※根拠資料あり [国際交流センター]海外大学・研究機関との連携強化および学生の国際交流の促進に向けて、学部横断的な取り組みを推進した。具体的には、文学部英語英米文学科が実施する「海外文化研修」に歯学部学生が「海外英語研修」として参加し、学部間連携による国際教育の充実を図った。また、歯学部学生6名は韓国・檀国大学への訪問、歯学部大学院生1名は米国フロリダ州のノバ・サウスイースタン大学への短期留学を通じて共同研究プロジェクトに参加し、研究の国際展開を推進した。これらの取り組みにより、研究者および学生の国際共同研究・国際交流の促進と支援体制の強化に寄与した。 [公共医科学研究センター]死因究明等の事業活動に関する司法当局(県警、海保等)及び関係事業における有識者との意見交換会を行った。法制の神奈川県死因究明推進協議会における本学事業活動の報告において県歯科医師会との連携による死因究明に関わる職種(歯科医師、警察官、海上保安官、自衛官等)を対象とした訓練会の実績に関して報告した。	A	80%	A	各部署の計画に沿った活動のなかでも、学部横断的な国際交流の推進や、地域が多職種と連携した死因究明の取り組みなど、本学の特色を活かした具体的な成果を確認できました。今後は中期計画である「活動の検証」を実効的なものにするため、活動の具体的な成果や計画に対する進捗状況などを、可能な範囲で数値(定量的データ)も交えながら報告いただけるよう求めます。

【Ⅱ. 研究】 1.学部 の枠を超えた学際的研究環境の構築

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
研究業績の学内外共有とマッチング機能による共同研究推進	教員の研究業績のデータベース化（機関リポジトリの導入）	教育研究支援課	[教育研究支援課]教員の研究業績及び研究データの保存について、機関リポジトリにデータを登録できるようにする。 [図書館事務室]研究業績管理部署の教育研究支援課から送達される各種データを、公開基盤（機関リポジトリ）へ掲載する。	[教育研究支援課]機関リポジトリの活用を推進し、機関リポジトリを管理している図書館と連携して進める。 [図書館事務室]教育研究支援課等と連携し、研究業績及び研究データ等を機関リポジトリに登録する。	【期末報告】 [教育研究支援課]即時オープンアクセス義務化の具体的内容とGakuNin RDMの概要等について外部講師を招き説明会を開催した。（2025.11.7） ※根拠資料あり [図書館事務室] データ管理基盤「GakuNin RDM」とJAIRO Cloudがβ版としてデータ連携を開始したが、「GakuNin RDM」に登載事項が無く、かつJAIRO Cloudの動作が不安定な事から、β版での連携を見送った。	B	50%	B	報告内容を確認しました。今後は説明会を開催した結果、データ登録に繋がった件数や、即時オープンアクセス義務化への対応など、引き続きの対応と改善を求めます。
	企業や海外大学との共同研究	教育研究支援課	企業との共同研究の推進	教員と企業からの要望に沿った共同研究契約をする	【期末報告】 海外の大学との共同研究実績はないが、令和7年度の企業との共同研究については、継続して適切に実施した。※根拠資料あり 【追加報告】 企業主催のユーザーミーティングに参加し、他の大学や企業との情報交換や交流を深め、共同研究の推進に努めた。また、企業からの共同研究に関する情報提供や問い合わせに対し、内容に応じて適切な講座・教員へ提案・紹介するなど、企業と教員との橋渡し役をおこなった。	A	80%	A	根拠資料から実績は確認できましたが、年度目標である「企業との共同研究の推進」に対しての業務を報告してください。 具体的な活動について確認できました。引き続き、推進・向上に努めてください。

【Ⅲ. 医療】 1.社会変化に伴う医療ニーズの多様化・高度化を見据えた改革によって、地域の健康寿命の延伸に貢献する

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
附属病院における空間・環境の整備	患者動線に配慮した歯科診療機能の配置等による利便性向上と診療効率化	病院事務部	診療科フロア制の導入に伴う設備の構築、院内環境改善	・診療科の統合 ・バリアフリーの強化	【期末報告】 ・3科の受付集約は、場所の設置・人員確保ができていない状況のため未実施。 ・バリアフリートイレは、2025年12月7日（日）に工事完了。12月15日（月）より使用開始。 ・3F障害者歯科は、2026年3月15日（日）1Fへの移設工事完了。3月24日（火）より診療開始。診療室内に中待合室を設置した。	B	60%	B	年度目標・計画に沿った実績を確認しました。今後は、新たな設備や院内環境の改善による効果等の報告も求めます。
病院内に地域連携室を設置し、地域の医療機関や歯科医師会と連携した地域医療ネットワークを構築	周術期の口腔ケア機能を拡充	病院事務部	地域医療連携室においての広報活動による増患、増収を目指す。	・済生会横浜市東部病院の周術期患者の受け入れ枠を増やす。 ・HPの活用等、広報活動による地域住民への周知。	【期末報告】 ・周術期受診者数は、昨年度より1.81倍増、収入も増加した。 ・次年度に周術期口腔機能管理の専門外来を開設し、さらなる増患を目指す。 ・広報活動は現状維持のままであるが、専門外来開設に伴い次年度は活動を強化していく。 * 根拠資料あり 【追加報告】 ・ご指摘のありました資料について、再提出いたします。根拠資料に再アップロードしましたので、ご確認をお願いいたします。	A	70%	A	受診者数・収入ともに増加したとのことですが、根拠資料の2025年度分が前半のみの報告となっていますので、資料の再提出を求めます。 資料から増患、増収について確認しました。今後もさらなる強化を期待します。
	障がいを抱える患者様を対象とした、日帰りの全身麻酔下歯科治療の実施体制を強化	病院事務部	前年度より倍以上の増患、増収を目指す。	・設備、スタッフの導入 ・若手の歯科医師の教育を行い全麻下治療に対応できるスタッフを増やし、増収に繋げる。	【期末報告】 ・スタッフの増員はなかったが、月平均患者数は6.25名で、昨年度とほぼ同数であった。 * 根拠資料あり	A	70%	A	報告にある症例数を見ても近年増加傾向にあることが確認できました。引き続き、体制強化に努めてください。
	超高齢社会における歯科総合病院の特徴を活かした質の高い訪問歯科診療体制を構築	病院事務部	・高齢者歯科による訪問診療中止に伴い、体制の再構築を行う。	・口腔内科を主導とした訪問診療を行う。 ・臨床研修歯科医が訪問診療先に行けることにより、口腔内科のスタッフの院内外業務の軽減および研修医においてはより多くの訪問診療を経験し修得ができ充実した研修に繋がる。	【期末報告】 ・高齢者歯科による訪問診療中止は継続中。 ・口腔内科を主導とした訪問診療に移行したが、収益は減少となった。 ・臨床研修歯科医は、研修の一環としてより多くの訪問診療の現場に立ち会えた経験が修得となり、充実した研修となった。	A	70%	A	口腔内科の業務改善や後進の育成に繋がっていることが確認できました。引き続き、訪問診療体制の改善・向上に努めてください。

【Ⅳ. 社会貢献】 1.地域（住民・行政）と總持寺、本学の連携

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
街づくり・地域活性化のためのコミュニティ形成と運営	地域（住民・行政）並びに總持寺と連携した事業やイベントの実施	総務課	・つるみ夢ひろば参加協力 ・鶴見観光ネットワーク事業（商店街等）に協力 ・鶴見大学杯 少年野球大会開催	・第11回つるみ夢ひろばに参加協力（マスコットキャラクターの参加、運営参加等） ・令和5年度から再開した鶴見観光ネットワーク事業に協力する。 ・鶴見大学杯少年野球大会を鶴見区少年野球連盟と共催、横浜市鶴見区及び神奈川新聞社後援にて開催予定。	【期末報告】 ・鶴見観光ネットワーク事業の一環として、「つるみ祭りdeフェス」に学生4名ボランティアが協力（9月14日）した。 ・輪島物産展は10月25日、26日に紫雲祭内ブースにて開催、同日開催の第11回つるみ夢ひろばにも併せて運営参加協力を行った。 ・鶴見大学杯学童野球大会開会式を9月28日に行い、大会を主催した。	A	20%	B	数年にわたり継続開催できていることは確認できました。今後は、新たな事業やイベントの立案・実施も検討を進めてください。 【外部委員】 總持寺と具体的にどう連携し社会貢献を果たしたのかという記述が見受けられない。大学の特色を含めた連携や、それが地域活性化にどう結びついたのかといった具体的な取り組みの詳細が明記されていない。

【Ⅳ. 社会貢献】 2.大学の教育研究成果を地域・社会に還元

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
	教育研究成果を 社会へ還元する ための取り組み強 化	全学	[文学部]図書館司書夏期講習を実施する。 [歯学部]歯学の専門知識・技術を活かし、地域 社会や医療機関と連携した社会貢献活動を推進 する。 [保育科]地域連携、社会活動に積極的に参加 する。 [歯科衛生科]地域連携、社会活動に積極的に 参加する。	[文学部]図書館司書夏期講習を実施する。 [歯学部]地域歯科医療の向上を目的とした公開 講座・歯科健康相談の実施と、産学官連携によ る研究成果の社会還元を促進する。 [保育科]地域連携、社会活動に積極的に参加 する。 [歯科衛生科]地域連携、社会活動に積極的に 参加する。	【期末報告】 [文学部]図書館司書夏期講習を7/5～9/20の期間で実施した。 [歯学部]本年度は、歯学の専門知識・技術を活かし、地域社会および医療機関と連携 した社会貢献活動を推進した。地域歯科医療の発展を目的として、公開講座や歯科健 康相談を定期的に実施し、地域住民の口腔保健意識の向上に寄与した。また、産学官 連携を通じて研究成果の応用を進め、共同研究や技術移転などによる社会還元を推進 した。これにより、教育研究成果の社会への発信および活用が着実に進展した。 [保育科]地域連携、社会活動に積極的に参加した。学生のボランティア参加や授業との 運動による参加など、さまざまな形で参加が見られた。 [歯科衛生科]地域連携、社会活動に積極的に参加した。学生のボランティア参加や授 業との運動による参加も多くみられた。 鶴見大学図書館 貴重書ミニ展示「鶴見大学短期大学部歯科衛生科主催 歯科と美術 第1回 西洋美術における拔牙」を開催した。2025年10月24日(金)～11月29日(土) 鶴見 大学図書館1階エントランスホール	B	60%	B	各学部学科による活動について、 今後はより具体的な事例や、社会 活動参加数の経年比較などの報 告も求めます。
本学の強みを活 かした社会連携・ 社会貢献活動の 推進	知見を活かした社 会貢献活動	大学	[仏教文化研究所]公開シンポジウムの実施と一 般公開・研究紀要の発行と各研究機関への送付 [国際交流センター]海外の大学・研究機関や国 際機関と連携することで、グローバルな視点での 課題解決を可能とさせ、地域の活性化や社会貢 献活動を深化させる。 [公共医科学研究センター]横浜市東部における 死因究明等に寄与するべく、具体的な施策の企 画並びに着手を促進する。	[仏教文化研究所]公開シンポジウムの実施。研 究紀要の発行 [国際交流センター]鶴見区はもとより横浜市に おける地域の多文化共生支援に取り組む。 [公共医科学研究センター]神奈川県における警 察取扱遺体数の激増を受けて、横浜市東部にお ける検案(看取り検案含む)の受け入れ体制を準 備を開始し、地域が抱える問題解決へ繋げる。	【期末報告】 [仏教文化研究所]事業計画に従い、6月に公開シンポジウムを開催、研究紀要の発行 を行った。 [国際交流センター]鶴見区役所と連携し、歯学部留学生を対象として日本での生活 ルールや地域社会におけるマナーに関する周知をした。本取り組みにより、留学生の地 域社会への円滑な適応を支援するとともに、多文化共生の推進に資する基盤づくりを 行った。また、地域行政との連携を通じて、横浜市における多文化共生支援の一端を担 い、社会貢献活動の深化につながった。 [公共医科学研究センター] 横浜市東部における死因究明等に寄与するべく、具体的な施策の企画並びに着手につ いて神奈川県警察及び地域の検案専門医との協議を継続している。他、それに繋がる 死因究明に関わる専門職(歯科医師、警察官、海上保安官、自衛官等)の育成を推進し ている。加えて、本学と横浜市との協定(災害時における歯科医師等の派遣に関する協 定)に基づき、横浜市が主催する多数遺体取扱訓練に参加し、 県警察と共に行政官に対して遺体安置所の運営等について指導している。	B	50%	B	附置機関による社会貢献活動を確 認しました。引き続き、活動の推進 に努めてください。 【外部委員】 大学の教育研究成果を社会に還 元するにあたり、教職員等が専門 家として地域社会や教育現場から 求められ、その知見を組織的に還 元・提供するための仕組みが見え にくい。
	各種協定等に基づ く取り組みの強 化	総務課	[総務課] ・各種協定等に基づく活動 ・令和7年度鶴見連携カレッジ [管財課]災害時の避難施設である母子専用型 福祉施設の開設に向けて横浜市と協議の上、協 力に関する協定を締結する。	[総務課] (各種協定等に基づく活動) 1.鶴見区との包括連携協定 2.豊岡商店街協同組合との地域交流協定 3.輪島市との包括連携協定 4.その他、県・市等の協議会参加及び活動協力 5.学部・学科主体の公開講座 (令和7年度鶴見連携カレッジ) ・学科への協力依頼・講座内容、実施方法、広報 内容企画・地域連携推進委員会にて実施案提出 ・ポスター等作成、発送、周知等広報活動・講座 実施 [管財課]避難所の開設に向けて検討し、協定を 締結する。	【期末報告】 [総務課] ・鶴見区との包括連携協定に基づいた学習支援サテライト教室を実施した。(7月より月2 回程度。)※根拠資料あり ・鶴見区政100周年記念事業に関する会議等に出席した。 ・令和7年度つるみ連携カレッジ「アジアの祈りの世界」を予定通り10月18日、10月25日、 11月8日、11月15日、11月22日(計5回)に開催。受講者数は42名。※根拠資料あり ・英語英米文学科と協力し、市民向け講座を6月28日、9月20日、3月7日(計3回)に開 催。受講者数は42名。 ・2月10日に国立歴史民俗博物館と教育・学術交流・協力に関する協定を締結した。 [管財課] ・1月19日に横浜市と「母子専用型福祉避難所」の設置に関する協定締結式を行った。 ・3月25日に横浜市、横浜市助産師会と大学との合同開設シミュレーション訓練を実施し た。	A	20%	B	各種協定に基づいた活動を確認し ました。協定先との意見交換や参 加者へのアンケート実施など、取 組みの強化に繋がる手法につい ても検討してください。 【外部委員】 市民向け講座等は実施されている ものの、大学が有する豊富な学術 資源(図書館等の施設や学問領域 の知見など)を活かした地域(住 民・行政)連携についての具体的 な方針や実施状況の記載が見受 けられない。地域のニーズの掘り 起こしが、よりよい社会貢献に繋 がるのではないかと。
歯学部及び附属 病院を活かした地 域社会の健康福 祉の増進	地域医療ネット ワークの構築及び 地域医療の提供	病院事 務部	・歯科医師会、地元歯科医院との連携による、患 者受け入れ体制の構築	・昨年度加入した鶴見区地域医療推進ネットワ ーク「サルビアねっと」を活用し、地域包括ケアシ ステムを構築する。 ・患者、地域住民に対し、健康増進のためのセミ ナーを開催する。	【期末報告】 ・「サルビアねっと」の活用は十分に活かされていない現状。 ・セミナーの開催も未実施。 ・次年度に、地域医療連携室のあり方について再検討・再構築が必要である。	C	10%	C	計画に対し、推進できなかった原 因分析を行い、引き続き改善・向 上に努めてください。

【Ⅴ. 大学運営】 1.組織運営の高度化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
学園(大学)のあ るべき姿・将来像 の明確化	学園(大学)の将 来像の設計(マス タープラン)・中長 期計画の策定	総合企 画課	・学校法人総持学園中長期計画「総持学園 Vision 2031」ならびに中長期財政計画のひとつ である「事業活動収支シミュレーション」について 共有を図り、中期的に計画を遂行していく。	・学生募集の強化を図る。 ・学園が保有する不動産等の利活用方法を議論 し、設立する事業会社を中心に収益を上げる具 体的な施策を検討する。 ・資産運用方法を一部変更する。	【期末報告】 ・オープンキャンパスでの来場者と在学生・卒業生が交流できる機会を設け、高校訪問 や出張講義、資料送付などを継続して行った。 ・学校推薦型選抜の指定校数大幅拡充(文学部1,455→2,094校、保育科1,688→1,849 校、歯科衛生科1,205→1,372校) ・歯学部の外国人留学生特別選抜の早期実施、選考基準の明確化 ・事業推進課が中心となり、不動産等の利活用について協議を継続中である。 ・新たに策定した「令和7年度 資産運用方針」に基づき、管理・運用を行った。 ※根拠資料あり	B	10%	B	年度目標にある「総持学園 Vision 2031」ならびに「事業活動収支シ ミュレーション」を基に、引き続き各課 と連携し改善・向上に努めてくださ い。

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
効率的な組織づく りによるガバナン スの質向上	内部統制の確立	総務課	・内部統制システムの基本方針に係る規程等の策定及び見直し ・内部統制システムに基づいて各部署においての適切な業務管理運営	・内部統制システムの基本方針策定に伴い、内部統制に係る必要な規程の策定及び不断の見直しを図り、各部署において適切な業務の管理運営を行う。	【期末報告】 各部署において、内部統制に係る必要な規程の策定及び不断の見直しを図り、適切な業務の管理運営を行っている。 【追加報告】 各部署の内部統制の状況を把握・検証するため、監事による各学部長へのヒアリングを継続的に実施している。 当該ヒアリングを通じて得られた各学部の状況や意見をもとに、必要に応じて関係部署間で共有を図っている。	A	20%	B	全体として取り組みが行われていることが伺えますが、実施内容をより具体的に示してください。 追加報告について確認しました。 学内全体への周知や情報共有等にも引き続き取り組んでください。
	外部委員による提 言に基づく改善・ 向上	総合企画課	産業界及び他大学の教職員から委嘱された外部委員からの意見を全学自己点検評価委員会にて議論し、点検・評価結果に基づく改善・向上を図る。	委嘱する外部委員を選考し、「事業実績」もしくは「点検評価報告書」に関する意見を全学自己点検評価委員会にて議論する。	【期末報告】 外部委員2名に「令和6年度 事業報告」の中から(1)高大接続の円滑化・(2)学生支援の充実について提言をいただき、報告書を作成した。提言は「令和6年度 事業報告」の委員会評価にも反映させ、9月開催の全学自己点検評価委員会にて周知した。	B	10%	B	報告書作成と周知については確認できましたが、今後は提言案に対する改善を進めてください。
	定期的なUD開催 による全学的な議 論・共有・浸透	人事課	大学を取り巻く環境の中で、対応していかなばならない事柄をテーマとして実施していく。	開催日も含めてなるべく早い段階に内容を決定し、開催したUDについては参加率100%を目指していく。	【期末報告】 令和8年2月26日、UD研修会を実施。昨年度からの継続性を重視してカスタマーハラスメントを中心にハラスメントに関して研修を開催した。無意識に行為者とならないための注意喚起も行った。	A	90%	C	参加率とアンケート内容の集計も行ってください。
広報活動・情報発 信の戦略的な取 組み	大学広報・入試広 報の強化	総務課	[総務課]広報事業(学園広報含む)の強化 [入試課]受験生及び保護者をターゲットに、イベントや入試情報の発信を、あらゆるツールを駆使して行う。	[総務課] ・広報事業の所属性の明確化に向けた取り組み ・各部署間での広報活動の連携 ・広告活動等の継続 [入試課] ・高校ガイダンスや進学相談会、高校訪問などの対面による情報の発信 ・WEBサイトやSNSを活用した情報の発信 ・位置情報等を利用した特定の受験生層への情報の発信	【期末報告】 [総務課] ・学園広報をはじめとする各種広告活動については、その展開領域を少しずつ拡大しつつ、継続的に実施している。 ・附属病院、入試課等と広報活動の連携を図り、各種雑誌掲載を行っている。 ・横浜市内を運行中の本学オリジナルフルラッピングバスのデザインを一新し、視認性と訴求力を高めることで、継続的な広報活動の充実を図っている。 [入試課] ・高校ガイダンスや進学相談会、高校訪問など対面による情報発信については、機会や地域を広げ、遠隔地の進学相談会や、若干遠方の高校ガイダンスにも積極的に参加した。 ・MA(マーケティング・オートメーション)ツールも活用し、WEBサイトやSNSを活用した情報の発信、及び位置情報等を利用した特定の受験者層への情報発信を効果的かつ省力的に行った。 ・受験生応援サイトのコンテンツについて、離島からの進学支援に関する特設ページの開設など、本学をより多角的に発信することに努めた。	A	20%	B	実施内容については確認できましたが、今後は効果検証を進め、その内容を公表してください。
	SNSを活用した効果的な情報の発信・更新	総務課	[総務課] ・教職員のメディア等の出演情報に関する発信 ・教職員の社会貢献情報に関する発信 [入試課] ・開催イベントや入試情報の発信 ・学生の様子などの受験生の興味を惹く情報の発信	[総務課] ・学部、附属病院等に所属する教職員の活躍を取り上げたメディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等)の情報の収集及び申告システムを整備し、一元的に発信する。 [入試課] ・発信内容によりInstagram、X、Line、YouTubeなどを使い分け、最適な形で受験生や保護者へ情報が伝わる発信に努める。	【期末報告】 [総務課] ・各教職員に関わるメディア出演情報を随時収集し、継続的に大学ホームページ等により一元的に発信している。 ・CampusNOWのInstagramでの配信について、2026年度から本格的な運用配信を行う。 [入試課] ・開催イベントや入試情報の発信において、SNSを積極的に活用し、動画やWEB広告の併用により受験生への情報提供を積極的に行った。 ・受験生応援サイトの「お知らせ」欄を随時更新し、TOPページから必要な情報への容易なアクセスに努めた。	A	20%	B	取り組み事例に対し検証を行い、継続する内容や新規の活動取り入れるなど、引き続き改善・向上に努めてください。
教員組織の質向上	大学として求める教員像・要件の明確化及び教員組織の編制方針の策定・運用	人事課	ホームページにて公開している「鶴見大学教職員人材育成の目標・方針」「鶴見大学教職員の行動規範」を受け、求める教員像・要件を確認していく。	求める教員像・要件について、各学部の考え方を確認していく。	【期末報告】 断片的に学長と話をするも、学長の考え方を知り、方向性を定める準備に至っていない。	C	20%	C	考えられる方向性をご検討いただき、打合せや会議・委員会にてご意見をいただくなど、具体的な進展を期待します。
	教員の評価制度	人事課	学科単位での評価制度について、現状を把握する。	学科内における評価制度(例えば業績等)の有無や内容について確認していく。	【期末報告】 歯学部教員の任期制度に関する各種規程について、労働契約法の無期転換ルールとの関係について歯学部将来計画委員会(令和7年12月4日)、歯学部定例教授会(令和8年2月19日)にて説明を行う。 【追加報告】 歯学部の任用期間を定めている規程と、労働契約法で保障されている権利(無期転換)に関して一部齟齬が生じているため、このことについて重点的に説明を行い、任用継続については慎重に実施する必要性を強調した。 学科単位での評価制度(年度毎)についてはその実態がつかめていないが、昇格時に各委員会等及び教授会にて判定が行われていることから、制度的には評価の実態が確認できる。	B	50%	B	委員会・教授会で説明を行ったとのことですが、その報告をお願いします。また、年度目標・計画に対する進捗報告もお願いします。 追加報告を確認しました。引き続き、現状の把握と検討を進めてください。

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
教員組織の質向上	学部を横断したFD活動の構築	大学	[文学部]全学FD研修会(UD)を実施する。また、文学部のFD研修会を他学部の教職員へ周知する。 [歯学部]学部を超えたFD活動を通じて、歯学教育の質向上と教育手法の革新を推進し、他学部との連携を強化して、教育改善のための学び合いを促進する。	[文学部]全学FD研修会(UD)を実施する。また、文学部のFD研修会を他学部の教職員へ周知する。 [歯学部]他学部との合同FD研修・ワークショップの実施により、教育の質向上と最新の教育手法の導入を図る。	【期末報告】 [文学部]実践・情報報告会を下記の通り実施した。 日時:6月12日(木)16:30～18:00 演題:自律的読者育成のためのFree Voluntary Reading 講演者:深谷素子教授(英語英米文学科) 日時:11月13日(木)16:30～18:00 演題:大学院教育における著作物利用 講演者:内田弘二氏(一般社団法人日本著作権教育研究会) [歯学部]全学FD研修会(UD)を実施し、他学部教員との交流を通じて教育の質向上と多様な教育手法への理解を深めた。 【追加報告】 [文学部] 第1回実践・情報報告会の他学部教職員参加数は11名。 第2回実践・情報報告会の他学部教職員参加数は4名。 [歯学部] 1. 令和8年度春季歯学部教職員集会 日時:4月17日(木)17:30～18:30 参加者113名 2. 令和7年度歯学部歯学教育に係るFD(講演会) 日時:2月4日(水)17:30～18:30 参加者 53名 演題:『CBTの成績と国家試験の関連について』 演者:平林里大助教(Cr-Br補綴学) 3. 令和7年度歯学部歯学教育に係るFD 日時:2月18日(木) 17:00～19:00 参加者55名 テーマ:『学生を上位、中位、下位に分けて行う面談時の指導方法』(学生へのアプローチ方法(話し方、指導の仕方)について) ※プロダクトを作成し各グループの発表後質疑応答	C	30%	C	文学部においては、他学部の教職員参加実績について報告してください。 歯学部におけるFD活動を報告してください。 追加報告について確認しました。 中期計画を念頭に、引き続き改善・向上に努めてください。
	大学院固有の教育に関するFD活動の実施	大学院	[文学研究科]大学院固有の教育研究に関するFD研修会を実施する。 [歯学研究科]大学院教育・研究指導の質向上を目的としたFD活動の充実と教育手法の高度化を図る。	[文学研究科]大学院固有の教育研究に関するFD研修会を実施する。 [歯学研究科]大学院教育に特化したFD研修を実施し、最新の研究指導法・教育手法の共有と実践を促進する。	【期末報告】 [文学研究科]実践・情報報告会を下記の通り実施した。 日時:11月13日(木)16:30～18:00 演題:大学院教育における著作物利用 講演者:内田弘二氏(一般社団法人日本著作権教育研究会) [歯学研究科]大学院教育・研究指導の質向上に向け、FD活動の充実および教育手法の高度化について検討を行った。さらにFD研修については、学部との合同開催を視野に入れ、その実施方法について検討を行った。	B	50%	B	認証評価の「改善課題」でも挙げられていることから、引き続き検討を行ってください。
職員組織の質向上	大学として求める職員像・要件の明確化及び職員組織の編制方針の策定・運用	人事課	ホームページにて公開している「鶴見大学教職員人材育成の目標・方針」「鶴見大学教職員の行動規範」を受け、求める職員像・要件を確認していく。	新卒者採用募集時に提示した「求める人材」を含めて、求める職員像・要件を確立していく。	【期末報告】 本学において求める職員像を、新卒者採用募集時に提示するとともに、令和7年度に実施した中途採用についても同様に、求める職員像を要件を確立すべくその選考過程で意識しながら進めて行った。	A	80%	B	求める職員像については確認できました。今後は、編成方針の策定・運用についても検討を進めてください。
	職員の評価制度	人事課	上記と連動し、求める職員像・要件に適合した各階層にとっての評価基準を策定していく。	上記を優先するが、評価手順について検討していく。	【期末報告】 階層別研修ではエンゲージメントを主題に全階層を実施したが、評価制度導入に関しては研修時の成果物を見る限り予想した以上に抵抗感が低いことが確認された。評価制度に関する具体的な制度設計はまだであるが、環境を整え進めて行く必要はある。	B	40%	C	職員のモチベーション向上及び適正な人材配置のため、制度設計の推進を求めます。

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
収支バランスの回復に向けた財政運営	収入の増加と支出の抑制策	経理課	[経理課]財政基盤の安定を目標に、教育活動収支差額のマイナスを均衡させ、経常収支差額の改善を図る。 [人事課]可能な限りの人件費抑制を図る。 [管財課]施設利用収入を増やすため事業推進課と協力して取り組んでいく。 [教育研究支援課]外部資金の獲得の増加を目指す。 [事業推進課]事業会社と連携をとり、多角的な収益の確保のための基盤を構築する。	[経理課]中長期的な財政計画を策定・実行するとともに、収支構造の見直しを進める。また、経営改善を実現するための予算を策定し、適切に執行する。 [人事課]時間外勤務について、所属長との連携を高めていく。 [管財課]施設利用申込に円滑に対応できるように施設の点検・整備を行う。 [教育研究支援課]外部資金の増額を目指すために、助成金等の募集案内を注視する。 [事業推進課]施設貸出受付業務・自動販売機管理業務・貸衣裳幹旋業務を事業会社が行うにあたり、大学の各担当部署でのこれまでの方法を確認し、効率的な方法と新たな収益を確保するための方策を事業会社と調整する。	【期末報告】 [経理課]中長期財政シナリオ分析を完了した。収入減に対し費用削減が追いつかず収支が悪化しており、次年度計画に改善策を反映する。 [人事課]時間外勤務について、個人別時間数、部署別時間外手当の合計を確認する。 [管財課]不具合箇所の整備、修繕を行った。 [教育研究支援課]各種団体の助成金の応募については、採択件数は前年を下回る結果となったが、共同研究については、新規契約数が前年度を上回る結果となった。(前年度比+3件) [事業推進課]事業会社である株式会社相承と連携し、①施設貸出受付業務・②自動販売機管理業務・③貸衣裳幹旋業務を調整した。 ①は各外部団体利用と学園行事を調整し貸出しを行なった。 9月30日の貸出件数は、記念館35件、1号館29件、2号館4件、3号館1件、4号館14件、5号館11件、体育館12件、師岡グラウンド11件、獅子ヶ谷グラウンド16件、附属中・高16件(連続ドラマ撮影)、他20件の合計169件(昨年度132件)となっている。 ②は各社と大学との自動販売機設置契約を、各社と事業会社間での契約に変更した。 ③は学生の袴等のレンタル利用を増加を図り、予約会の実施方法等を各社と協議し実施した。結果として、令和7年度卒業式における契約数は、各社合計で97件(昨年度74件)となった。	B	30%	B	現在の財政状況が極めて厳しいことは共通認識ではありますが、今後はより具体性を持った計画と明確な数値目標を策定いただき、引き続き改善・向上に努めてください。

【Ⅴ. 大学運営】 2.経営基盤の強化

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
収支バランスの回復に向けた財政運営	病院(医療)収入の増加と支出の抑制策	病院事務部	・周術期口腔機能管理による増患、増収。 ・保険診療請求の適正化による増収。 ・保険診療外収入の拡充。 ・T-DECを活用し外注技工費(委託費)を削減する。 ・附属病院経営改善方策として業務委託契約したコンサル業者による消耗品費、委託費の削減。	・医療保険委員会による、定期的カルテ記載指導の実施。 ・高額自費診療(インプラント科、矯正科)の整備。 ・SPD(院内物品質管理)による、消耗品の消費・在庫管理を一括管理し、死蔵・過剰在庫の解消およびコスト削減を図る。 ・業務委託業者とのヒアリングによる、業務契約内容の見直しの実施。	【期末報告】 ・医療保険委員会によるカルテ記載指導を毎月実施。保険平均点数は昨年度より若干だが増点した。 ・高額自費診療(インプラント科、矯正科)の整備は未着手。特にインプラント科については、診療科長の退職に伴い、次年度の診療体制についての再検討を要する。 ・業務委託については、次年度より変更するクリーニング業者との業務委託契約を締結し、2026年4月より運用開始。 ・コンサル業者による光熱水費の削減を実施。水道使用量が2024年度比90.6%となり、これは電気使用量が同比100.3%であることから節水栓取付けによる有意差と考える。年間としては約80万円程度の収支改善となった。 ※根拠資料あり	A	70%	A	収支の改善に向けた様々な取り組みについて確認しました。高額自費診療の整備検討やコンサル業者の活用による収支改善策など、引き続き推進してください。

【Ⅴ. 大学運営】 3.内部質保証体制の確立

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
内部質保証システムの適切性確保	全学的なPDCAサイクルの確立	総合企画課	内部質保証推進組織である大学運営協議会と全学自己点検評価委員会の役割を明確にして、共通認識を図る。	全学的に自己点検・評価に取り組み、体制を強化していく。	【期末報告】 ・9月開催の全学自己点検評価委員会で、一昨年と昨年に実施された認証評価の結果と共に本学の内部質保証体制について確認・周知を行った。 ・これまで主に事務部署が行っていた中期目標・計画の実施・報告体制を、2025年度より学部・附置機関にも広げた。	B	10%	B	会議体で確認・周知を行ったとのことですが、引き続き、学内での浸透・共有に努めてください。

【Ⅴ. 大学運営】 4.キャンパスにおける学修空間・環境の整備

中期目標	中期計画	部局名	年度目標	年度計画	年度実績	年度計画 進捗状況 自己評価	中期計画 全体の進 捗割合 (%)	全学自己点検評価委員会による 評価・コメント等	
多様な学生・学修に対応できる環境の整備	バリアフリー化やセキュリティ強化	管財課	[管財課]キャンパスを取り巻く様々な状況を鑑み、取り組むべき優先順位の高い修繕・改修等の計画を策定し、取り組みが可能な計画は順次実施し、計画の中にバリアフリー化やセキュリティ強化が図れるように反映していく。 [包括支援課]バリアフリーマップのブラッシュアップを行う。	[管財課]キャンパス全体(中学・高校・幼稚園等を含む)の必要性のある修繕・改修等の計画を策定する。 [包括支援課]現在作成中のバリアフリーマップについて、学生サポーター等の協力を得て、改良を行う。	【期末報告】 [管財課]大学会館の一部バリアフリー工事が4月完成。記念館外構階段に手摺を設置。 [包括支援課]学生サポーターの協力のもと、バリアフリーマップを更新した。	B	10%	A	バリアフリー化の推進状況を確認できました。今後は利用者の声やそれに伴う改善内容等の報告も検討ください。
	機器・設備の統一化・標準化による維持・管理の効率化	管財課	授業等に支障のないように経年劣化による老朽化、不具合が多発している機器備品等の更新を行い、維持・管理に努める。	・1号館AV・PC機器更新 ・3号館実習室AV機器更新(3年次計画2年目) ・4号館ユニット更新(2年次計画1年目) ・6号館空調設備更新(5年次計画1年目) ・記念館空調設備更新(3年次計画1年目) ・記念館ホール音響設備改修 ・大学会館EV更新及びバリアフリー化(2年次計画2年目) ・附属病院診療室・2号館電灯盤取替 ・師岡グラウト防球ネット及び法面打設・フェンス改修 ・附属中・高校空調設備更新(3年次計画1年目) ・附属中・高校ホール調光設備更新	【期末報告】 ・1号館AV・PC機器更新をはじめ、計画していた工事・更新は概ね完了した。 ・2号館・附属病院診療室電灯盤取替は調査が終了し、R8年度に取替予定。 ・3号館実習室AV機器更新…顕微鏡実習室2更新完了。 ・4号館ユニット更新工事…1期工事10月末完成に向けて進行中。 ・6号館空調改修工事は4Fフロア更新終了。引き続き各フロアを年次計画で更新予定。 ・記念館空調設備更新工事…地下1・2・3階エリア進行中。 ・附属病院診療室・2号館電灯盤取替…調査中。 ・大学会館EV更新及びバリアフリー化…4月更新・改修完了。 ・師岡グラウト防球ネット改修…進行中。 ・附属中・高校空調設備更新…進行中。 ・附属中・高校ホール調光設備更新…進行中。	A	30%	A	複数年にわたる設備更新計画の元、着実に実行されえていることが確認できました。今後は整備を行ったことによる具体的な効果や満足度の検証・報告も望めます。
効果的な学修空間づくり	図書館などの利便性向上による利用率拡大	図書館事務室	書庫狭隘化解消に向け、インターネットで代替可能な書籍の除籍処分を推進する。各種イベントを開催するなど、来館動機付けを図り、学生の利用率拡大を目指す。	インターネットで閲覧可能な他大学紀要及び学術雑誌の特定作業を実施する。巡回展示の実施による館内での学生選書を可能とする。	【期末報告】 他大学紀要については概ね除籍対象を特定し廃棄処分とした。学術雑誌除籍については特定作業の早期化を目指し方針転換をしたところである。 来館者数については、文学部4科は対前年度比3.8%増、歯学部は1.8減、短大部1.6減となり、トータルでは1.7%の増加となった。 ※根拠資料あり。 【追加報告】 イベントの実施状況として、「新古今和歌集と平家物語」を始めとして、貴重書展3回、企画展3回、貴重書ミニ展示3回、ミニ企画展3回の計12回の展示を実施した。 学生選書については、従前からの大規模書店に赴いて実施する「選書ツアー」において142冊を選書し、新たに開始した図書館内にて実施する「図書見本巡回展示会」では、出版社17社が約1,500冊を展示し、395冊の選書を行った。 その他イベントとして、POPコンテスト開催、附属高等学校・公立高等学校からのインターンシップ受入、他大学からの見学対応など各種業務を遂行した。	B	70%	B	年度目標・計画にある各種イベントの開催や学生選書についての実績がありましたら報告をお願いします。 ----- 実績等について、確認しました。今後も利用率拡大に向け、改善・向上に努めて下さい。
	グループ学習エリアなどの勉強しやすい空間の拡充	管財課	・キャンパスを取り巻く様々な状況を鑑み、取り組むべき優先順位の高い修繕・改修等の計画を策定し、取り組みが可能な計画は順次実施し、グループ学習エリア等の勉強しやすい空間を拡充できるような計画を検討していく。	・キャンパス全体(中学・高校・幼稚園等を含む)の必要性のある修繕・改修計画を策定する。	【期末報告】 ・2号館3階セミナー室を環境改善のため内装改修を行い整備した。 ・緊急性の高い各所修繕・改修は順次行った。	B	20%	B	計画に沿った管理・整備実績について確認できました。今後は、限られた財源のなかで行った整備等がどのような効果に繋がっているか等の検証も望まれます。